

令和6年度英語教育実施状況調査の結果について

1 調査目的

英語教育の実施状況を把握・分析し、今後の国の施策の検討に資するとともに、各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てるために実施

2 調査の概要

- ・調査実施基準日 令和6年12月1日
- ・調査対象 全ての公立中学校、高等学校
- ・本調査は平成25年度以降実施（令和2年は未実施）

3 調査項目

[中学校]

- ・中学生の英語力 [CEFR A1 以上]
- ・英語担当教師の英語力 [CEFR B2 以上]
- ・英語の授業等における ICT 機器の活用状況

[高等学校]

- ・高校生の英語力 [CEFR A2/B1 以上]
- ・英語担当教師の英語力 [CEFR B2/C1 以上]
- ・英語の授業等における ICT 機器の活用状況
- ・英語を使用する機会に関すること
- ・授業における英語担当教師の英語使用状況
- ・ALT 等の授業への参画状況

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200			9.0 8.5				
	(230) C2 Proficiency (210)	各級CEFR 算出範囲	各試験CEFR 算出範囲					
C1	199 180	3299 2600	1400 1350	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
	(190) C1 Advanced (180)	2630 1級	(1400)					
B2	179 160	2599 2300	1349 1190	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
	(170) B2 First (160)	2304 準1級	(2599)					
B1	159 140	2299 1950	1189 960	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
	(150) B1 Preliminary (140)	1980 2級	(2299)					
A2	139 120	1949 1700	959 690		224 135	415 235		1145 625
	(120) A2 Key (120)	1728 準2級	(1949)					
A1	119 100	1699 1400	689 270					620 320
	(100) 各試験CEFR 算出範囲	1456 3級	(1699)					

➡ は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受験生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

令和6年度英語教育実施状況調査の結果について

令和7年7月9日
義務教育課

○結果と推移について

本県の状況（例年12月1日現在） [%]

項目	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
中学3年生の英語力 (CEFR A1 レベル以上)	85.8 (47.0) 1位	86.4 (49.2) 1位	83.8 (50.0) 1位	79.8 (52.4) 1位
中学校英語担当教師の英語力 (CEFR B2 レベル以上)	64.8 (40.8) 1位	65.3 (41.6) 1位	65.0 (44.8) 3位	63.3 (46.2) 3位

※ () は全国平均値 順位は政令指定都市を除く

○生徒の英語力について

・生徒の英語力に影響を与える要素

(文科省:英語教育実施状況調査と全国学力・学習状況調査とのクロス分析による6要素)

※ () は全国平均値

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1. 教師の英語力 CEFR B2 以上	65.3% (41.6%)	65.0% (44.8%)	63.3% (46.2%)
2. 英語の授業における ICT の活用 (発表・話すこと【やり取り】)	91.8% (90.8%)	97.3% (93.2%)	100.0% (96.4%)
3. 授業における生徒の英語による言語 活動 50%以上	87.6% (74.5%)	84.5% (75.1%)	
4. 教師の英語使用 50%以上	82.0% (74.4%)	76.1% (68.4%)	
5. ALT による授業外の活動	89.0% (67.7%)	90.4% (73.0%)	
6. ALT の参画			
やり取り・発音のモデル	100.0% (98.6%)	100.0% (98.8%)	
生徒へのコメントやフィードバック	100.0% (97.5%)	100.0% (98.1%)	
パフォーマンステスト等の補助	100.0% (95.8%)	98.6% (96.5%)	

・外部検定試験 G T E C の活用

- ・「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの技能を統合的に育成するため、中学3年生はG T E Cを受験 (R 2～)
- ・教員を対象とした事後研修の実施 (動画配信および研修会開催)
(平成28年～令和元年 英語検定 / 令和2年度～ G T E C : 全額補助)

○教員の指導力向上について

・全中学校 A L T 配置

- 1・2年生で週1.5時間、3年生で週1時間のティームティーチング実施

・授業改善に向けた努力

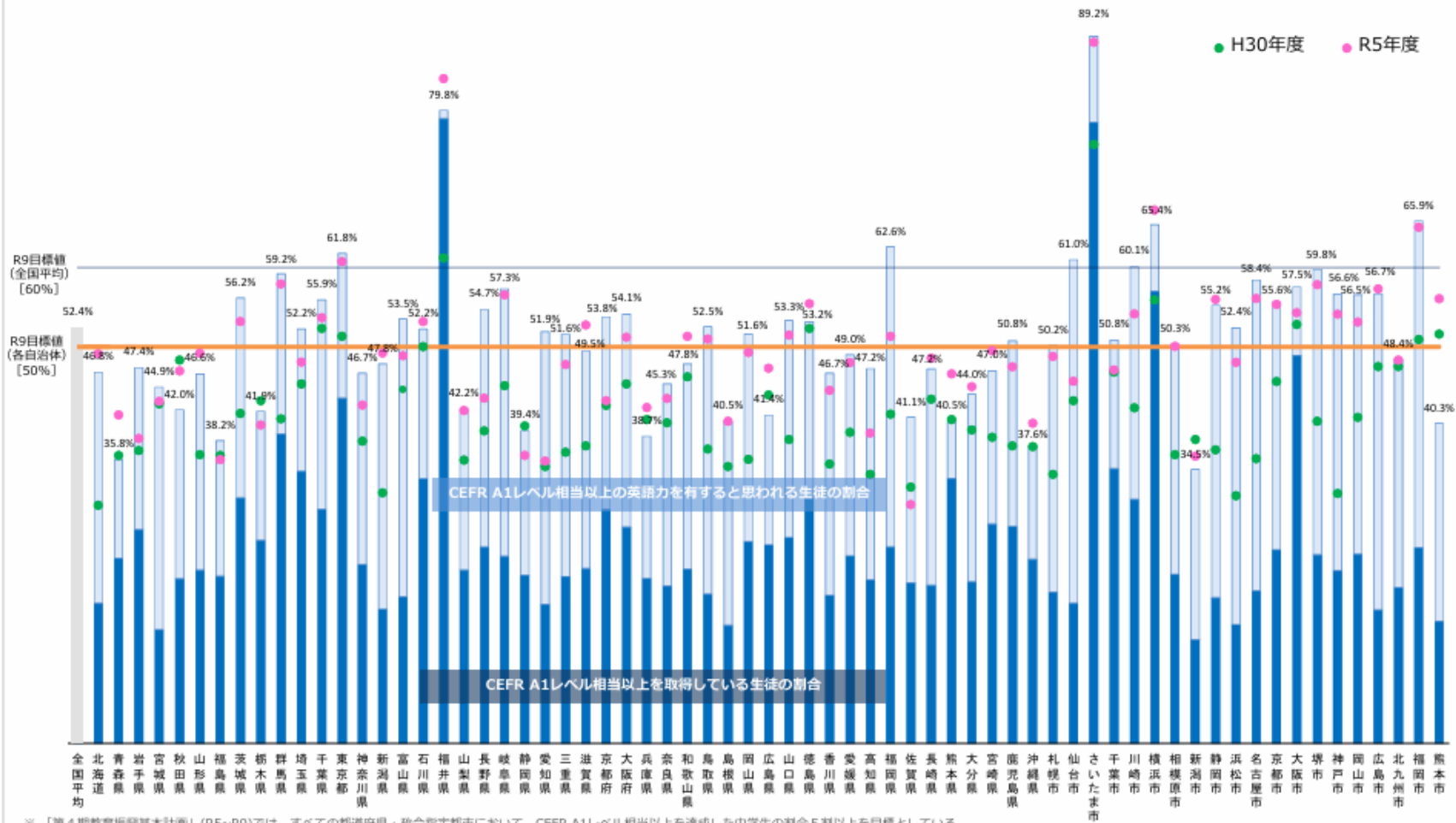
英語の授業を英語で行い、生徒が意見や考えを英語で表現するなど継続的な授業改善

・福井県英語研究会

全ての中学校と高校の英語教員が参加する自主研究組織での授業改善に資する取組を継続

【都道府県・指定都市別】中学生の英語力（CEFR A1以上）

- 政府目標であるCEFR A1レベル相当以上の中学生の割合50%を達成した自治体は増加傾向（全67自治体中37自治体（R3：20自治体 → R4：24自治体 → R5：28自治体））



※ 「第4期教育振興基本計画」(R5~R9)では、すべての都道府県・政令指定都市において、CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合5割以上を目標としている。
 ※ 「第3期教育振興基本計画」の始期がH30であることを踏まえ、H30からの経年変化を示している。
 ※ CEFR A1:英検3級相当
 ※ 上のグラフでは、中学校第3学年の生徒に占める割合を算出している。

令和6年度英語教育実施状況調査の結果について

令和7年7月9日
高校教育課

○結果と推移について

本県の状況（例年12月1日現在）

[%]

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
高校3年生の英語力 (CEFR A2 レベル以上)	59.6 (46.1) 1位	60.8 (48.7) 1位	61.1 (50.6) 2位	61.2 (51.6) 1位
高校3年生の英語力 (CEFR B1 レベル以上)		26.0 (21.2) 5位	29.1 (19.8) 2位	31.6 (21.2) 1位
高校英語担当教師の英語力 (CEFR B2 レベル以上)	96.9 (74.9) 1位	95.4 (72.3) 1位	98.1 (80.7) 2位	98.0 (82.2) 2位
高校英語担当教師の英語力 (CEFR C1 レベル以上)		40.5 (22.5) 2位	36.9 (21.8) 2位	34.9 (23.5) 4位

※（ ）は全国平均値 順位は政令指定都市を除く

○生徒の英語力について ※（ ）は全国平均値

	学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1. スピーキングテストやライティングテストを両方実施している	全学科	57.1% (48.6%)	74.1% (49.8%)	71.3% (49.7%)	
2. ALTの授業への参画 英語授業以外や学校行事 (部活動等、生徒交流、ディベート大会等)	普通科	87.5% (69.7%)	93.8% (73.5%)	100% (77.2%)	
	国際系	83.3% (94.8%)	100% (93.5%)	100% (90.4%)	
3. ICT機器の活用					
	発表や話すことにおけるやり取り	全学科	95.8% (86.9%)	95.8% (89.2%)	95.8% (90.8%)
	発話や発音などの録音・録画	全学科	95.8% (69.6%)	87.5% (71.0%)	83.3% (73.8%)
遠隔地の生徒等と英語で話す交流	全学科	41.7% (19.8%)	41.7% (21.2%)	41.7% (17.2%)	

・4技能を重視した授業改善とパフォーマンス評価の実施

生徒が読んだことや聞いたことについて、意見や考えを英語で表現するなど、4技能統合型の授業作りに加えて、スピーキングテストやライティングテストのパフォーマンス評価を組み入れた授業改善を行っている。

・ALTの活用

県内すべてにJETプログラムおよび県独自任用しているALTを配置し、授業だけでなく、部活動等、授業外での教育活動に積極的にALTを活用している。

・ICT機器の活用

各教員が一人一台のタブレットを活用し、生徒の表現力の育成に努めている。

○教員の指導力向上について

・自己研鑽の場の設定

ディベートの研修会を積極的に行い、教員がディベートについて学ぶ機会を設けている。論理・表現の授業を中心に、ディベートを積極に行うことで、生徒だけでなく教員の英語力向上にもつながっている。また、自主研究組織の福井県英語研究会で、中学校と高校の英語教員が連携を取り、授業改善を行うなど、自己研鑽の場となっている。

・教員採用試験における外国語資格の利用

教員採用試験で外国語資格による加点を行っている。

生徒の英語力が高い自治体の取組例

福井県

【授業改善】

- 学習指導要領で「英語で授業をすることを基本とする」と明記される（※）以前から授業を英語で行い、生徒が意見や考えを英語で表現するなどコミュニケーションを重視した授業を実践。（高校はH21改訂、中学はH29改訂から）
- 県内の中学校・高等学校の全ての英語教員が会員となる研究会（福井県英語研究会）があり、英語弁論大会、英作文コンテスト（高等学校）、英語セミナー等の企画・運営、リーディング・リスニングテストの作成、英語教育の研究活動等を実施。
- 県教委と福井県英語研究会や県中教研英語部会が連携。県内各ブロックリーダーと定期的に情報交換を行い、好事例を共有。

【外国語指導助手（ALT）の活用】

- 全ての中学校・高等学校にALTを配置。JETの任期終了者の中で優れた者を県独自のALTとして採用。
- 英語の授業以外の活動にもALTが積極的に参加。

【その他】

- 外部検定試験の全額補助（全中3対象）。外部検定試験の結果分析等をもとに、指導の好事例や改善点を共有。
- ディベートを取り入れた授業や英語ディベート大会などを実施。高等学校専門学科でのパフォーマンステストの充実のため、「ふるさとツーリズム英会話検定」を導入（生徒が福井の観光地を紹介する動画を提出し、ALTとの対面試験を実施）。

さいたま市

【授業改善等】

- 小1～中3まで教育課程特例校。市独自の小中一貫カリキュラム「グローバル・スタディ」の授業時数を増加。市独自の教材作成（小1～小6向け）や「グローバル・スタディ」の理念・指導法を教師に理解してもらう研修等を実施。

【外国語指導助手（ALT）等の活用】

- 市独自でALTを採用し、全ての小・中・特別支援学校に配置。小学校の授業においては複数の教員（担任教師、専科教員、グローバル・スタディ科非常勤講師、ALT等）による指導を実施。

【その他】

- 中学校で外部検定試験を活用し、結果分析をもとに教師の授業改善と生徒の学習改善のための研修会を実施。
- ディベート大会やイングリッシュ・キャンプ、海外の学校とのオンライン交流など、授業外での体験活動を充実。